

「主体的・対話的で深い学び」を後押しする

次世代PC教室

導入事例

流山市教育委員会 様

流山市
Nagareyama City

都心から
一番近い
森のまち

学習指導要領の改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。そうした中、千葉県流山市では新設校の設置に合わせてアクティブラーニングやSTEAM教育を実践する次世代PC教室『未来の教室』を導入しました。最新のICT機器・設備を備え、学びに合わせて柔軟に空間を変更できる未来の教室での授業は、子供たちの自由な発想、学習意欲、共に学びあう姿勢を強く後押ししています。



目指したもの

ICTを活用した
次世代PC教室の
構築

教育(教員)の
質の向上

主体的・対話的で
深い学びの実現

新しい
授業スタイルの
実践

流山市教育委員会

所在地 千葉県流山市平和台1-1-1

学校数 小学校19校、中学校10校

子供たちの主体的な学びを後押しする「未来の教室」 最先端のICT機器が、積極性と自由な発想を高める

児童・生徒数が急増する流山市 教員の質の向上が命題に

流山市は、人口が急増しており児童・生徒数は10年前の1.5倍、今後5年間で約2,500名も増加する成長途中の地域で、過去5年間で新設・移転校が5校開校しています。

そうした中での課題の一つが教員の質の向上（教師力の向上）でした。児童・生徒数の増加に合わせて教員も増員していますが、どの学校も配属されるのは、採用から5年未満の若い教員が半数を占めます。そのため経験が浅い教員の質的

向上を目指し、ICTを活用してレベルアップを図りたいと考えていました。若い教員はICT機器をすぐに使いこなします。実際、電子黒板もうまく活用し、ベテランの教員に使い方を教えるケースも少なくありません。

「次世代PC教室」を検討した背景ですが、活用率が下がっていた従来のPC教室を利活用して、最先端のICTを備えた教室を創りたいと考えていました。文部科学省ではGIGAスクール後に新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方に関する報告書で、未来の学校の在り方を議論しています。そこで、新しい時代の学び

を考えながら学校施設を捉え直す必要があります。それを参考に、独自に思考したのが市野谷小学校に設置した「未来の教室」です。



流山市教育委員会
教育長 吉田 瑞穂 様



流山市教育委員会 学校教育部 指導課
指導主事 桐生 貴博 様

学ぶ意欲を高める 理想の環境が実現

戦後80年続いてきた教員が黒板の前に立って授業する従来のスタイルから、子供たちが個々の学びを伸ばすための環境を整備していく。ただし、前例がないので答えのない教室づくりになると思いました。そのためより柔軟な発想で進められるよう官民共同で議論し、つくっていく方が、より現場や時代に即した教室ができると考えて、富士電機ITソリューションに相談しました。



今回の「未来の教室」は、16社の協力を得て実現したのですが、現在も進行形で新しい教室の在り方を模索しています。富士電機ITソリューションには、参加ベンダー各社をとりまとめ、全体構想を含めた設計図を描いてもらい、理想的な環境が実現しました。まだ発展途上ですが、従来の一律の授業スタイルではなく、例えば、床に寝転がって調べ物をするなど、画一的ではない授業スタイルも散見され

ており、その柔軟さが子供たちの探求心や学ぶ意欲を高めていると感じます。

今後は、市野谷小での「未来の教室」の利用を増やして、どのような授業や科目に活用できるかを検証していきます。また、文部科学省、国土交通省、内閣府、千葉県からの視察などもありました。国や県と連携し、市野谷小をモデルケースとした取り組みが全国に広がっていくことを期待したいですね。



自分達で使い方の創造性を広げる ゴールにたどり着く方法はさまざま

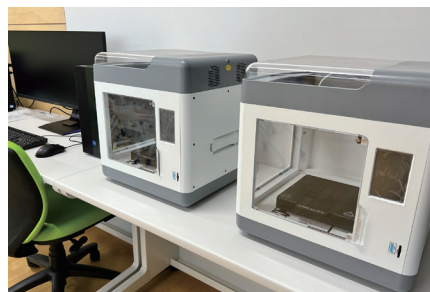
「未来の教室」は、児童にはワクワク感のある特別な教室です。子供は柔軟なのですぐに慣れて、例えば、3Dプリンタも基本操作こそ教えますが、すぐにこうして使っても良いですかなど、自分達で使い方の創造性を広げていきます。一方、先生には少しとっつき難く、教室の使い方に戸惑いがあるようです。

アクティブラーニング教室とSTEAM教室は個別に使用するより、同時に使用してその時に取り組む課題で場を使い分けています。今はまだ模索しながらですが、昨年11月に教室の使用モデル例として、5年生の国語の単元（12-13時間分）を活用し、このような使い方が効果的ではないかという授業をしました。児童自身が学びをコントロールすることをコンセプトに、従来の1対35という一斉指導ではなく、1対1×35というように、個々の学びの形が35通りあるという指導を目指しました。



具体的には、ノートを使用せず、今日やるべき課題を把握させた後は、残り5分の振り返りまで児童の取り組みを止めませんでした。ノートを使用しないことで、教師が黒板に書き、それを写し、全員が書き終わるまで待つ時間のロスがなく、児童の活動時間が増えます。評価のベースはすべてオンラインでの提出にしました。児童も誰が提出したのかどうかわかるので、提出していない子を助けたり、分からない子は提出した子に聞く、参考になるものを教わるなど、児童同士の学び合いが進みました。机は自由に組み合わせできるので、一人でも、友達同士でも、別のグループとでも、というように、色々なやり方を容易に試せます。従来は、この道を通りなさいと示していましたが、ゴールだけ示し、そこにたどり着く方法はいくつもあることを分かってもらったようにしたことで、児童は窮屈さを感じずに取り組んだと思います。今後は、教員自らの認識のアップデートを望みたいですね。

また、私達、教育者としての視点と、ICTのプロとして多くの知見を持つ富士電機ITソリューションの視点が融合することで、より使いやすく、真のニーズに合う教室に進化していくことを期待しています。



富士電機 ITソリューション株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-15-12
TEL:03-5817-5710
<http://www.fujielectric.co.jp/fsl>



JQA-QM9440



JQA-EM5776



JQA-IM0583



※登録の詳細につきましては弊社ホームページをご覧ください。